

国際ロータリー第2620地区
静岡第5グループ



POWER HAMAMATSU
ROTARY CLUB
JAPAN

週報 パワー浜松ロータリークラブ

もう一步前へ！

RI 会長 フランチェスコ・アレツツォ / 第 2620 地区ガバナー 稲葉雅之 / 会長 加藤恵司 / 幹事 鈴木 亮
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002 年 10 月 22 日 認証伝達式：2003 年 4 月 29 日 スポンサークラブ：浜松中 R C

よいことの
ために
手を取りあおう



Rotary

第1036回例会11月18日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラアクトシティホテル浜松 3 階 チェルシーの間
- 司会：長谷川博久 藤田光弘 ■点鐘：加藤恵司 ■週報：三枝潤也
- ロータリーソング：「希望のエナジー」
- ゲスト：(有)きちっと 代表取締役 管理者 佐藤文恵様
天竜浜名湖鉄道(株) 地域連携センター センター長 伊藤文俊様
米山記念奨学生 オウ・ウティさん

出席報告/スマイル報告

会員数 67 名 (内出席免除会員 3 名)
出席数 54 名 出席率 84.38%

スマイル提出者

- ・加藤恵司会長、鈴木亮幹事
- ・職業奉仕委員会
- ・原田道子さん

会長挨拶 会長 加藤恵司

あっという間に 11 月も半分を過ぎてしまい、今年もあと 1 ヶ月半となりました。忘年会も年々早くなり、11 月後半から忘年会シーズン突入という方もおいでと思いますが、健康管理にご注意願いたいと思います。オークラでの例会は久しぶりの感じがしますが、この間にもいろいろイベントがありました。11 月 2 日の「花のリレープロジェクト」、参加できず申し訳ありませんでした。村木さんが代わりに「高市イエーイ」をされたと聞いております。

11 月 16 日(日)は、RLI 2 回目が開催され、堀内 RLI ファシリテーターのもと、華岡さん、松本さん、長谷川さんに参加して頂きました。ありがとうございました。私は去年申し込んだのですが、抽選に漏れてしまいまだ不参加なので生意気なことは言えませんが、ライングループを見ますと、自分が所属するロータリークラブとはこんな組織だったんだと、いろいろ勉強になったとの感想でした。朝 9 時から夕方 16 時 20 分までの長丁場ですので、まだ体力のあるうちに奮ってご参加して頂きたいと思います。

また、15 日、16 日に地区事業「アママ再生プロジェクト」のイベントも開催されました。参加された方ありがとうございました。

さて、本日は、株式会社きちっとの代表取締役社長の佐藤文恵（さとうふみえ）様においでいただき卓話を頂きます。介護を理由に仕事を辞めざるを得ない、いわゆる「介護離職」を経営者としてどう食い止めていくのかは、大きな問題となっています。そんな時、仕事と介護を両立できるようにサポートする「ワークサポートケアマネージャー」という専門職があることについてお話頂きます。

実は、佐藤社長は私の関与先でありまして、「ワークサポートケアマネージャー」については兼ねてから色々お話を伺っておりました。「介護とは突然降りかかってくる場面が思いのほか多く、予備知識もないまま間違った選択をしてしまうことが多い」とお聞きしました。

今は関係なくても、いざという時に思い出して頂ければと思い卓話をお願いしました。佐藤社長はパワーにも知り合いが多く、入会を勧誘しているところでもあります。また、多分、今日の話には出てきませんが、ご本人は排泄専門の看護師でもあり、「最後まで排泄を自分ですることが自分の尊厳を守ることの第 1 歩」と教えて頂きました。

佐藤様よろしくお願い致します。



幹事報告 幹事 鈴木 亮

1. ロータリーの友をレターケースにて配布いたしました。
2. 次回の例会会場は西山病院になります。時間は 7:20~8:20 に変更です。
3. 11/15, 11/16 の地区合同奉仕事業に参加された方、ありがとうございました。
4. 花のリレープロジェクトについて、天竜浜名湖鉄道の伊藤さんよりご挨拶頂きます。

委員会報告

1. クリスマス例会のお知らせ（親睦委員会／石津真実）



←
米山記念奨学生
オウ・ウテイさん
による中国語講座

→
11月が誕生月の
メンバー



議事

卓話：佐藤文恵さん

「仕事と介護の両立 ワークサポートケアマネジャーの役割」

概要：介護を理由に仕事を辞めざるを得ない、いわゆる「介護離職」が社会問題となっています。仕事と介護を両立できる社会を目指し、介護をしながら意欲的に働けるようサポートする専門職「ワークサポートケアマネジャー」の役割について卓話していただきました。会員の皆が、介護離職対策の必要性を知る良い機会となりました。

担当：職業奉仕委員会



一般社団法人日本介護支援専門員協会が認定する「ワークサポートケアマネジャー（WSCM）」は、仕事と介護を両立する就労者や、将来介護を担う可能性のある層を支えるために誕生した専門資格である。5年以上の実務経験を持つ主任介護支援専門員が対象となり、制度改正や診療報酬、障害施策など最新情報を継続的にアップデートしながら、企業や産業医、社労士など多職種と連携し、質の高い支援を提供する点が大きな特徴である。企業と契約したうえで、組織向けのプランと従業員向けのプランを使い分け、個々の働き方と介護状況に応じた具体的な助言や調整を行う。

背景として、2000年にスタートした介護保険制度では、申請から認定までの過程を経て、利用者がどのような支援を受けるかをケアマネジャーが伴走しながら考えていく。本人の意思決定を尊重し、自立と生活継続を支えることが重要であり、訪問・通所・宿泊・リハビリテーション・看取りに至るまで多様なサービスを組み合わせて調整する役割を担う。

更に2024年施行の「認知症基本法」は認知症を“恐れるべきもの”としてではなく、誰もが向き合う可能性のある身近なテーマとして捉え、共生と予防の視点を社会全体で共有することを掲げている。最新の世論調査では法成立そのものを「知らない」と答える人が75.8%に達し、制度理解が依然として進んでいない現状が浮き彫りになっている。また、自分が認知症になった場合の暮らし方として「地域で生活したい」が約半数を占める一方、「家族に迷惑をかけたくない」と単身生活を望む声も一定数あり、周囲の支援体制の整備が急務であることが示されている。

こうした社会状況を踏まえると、介護と仕事を両立させるためには、本人の意思をどのように引き出し、周囲がどのように支えていくかという「意思決定支援」が中心的なテーマとなる。2040年の人口構造を見据えれば、多死社会に伴う看取りの場や家族の関わり方を早期に話し合い、必要な支援や制度を事前に確認する「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」の重要性が一層増していく。東京都の「私の思い手帳」など、意思の言語化を促す取り組みも広がりつつある。

ACPは、医療・介護の専門職や家族など信頼できる人々と対話を重ねながら、本人が望む医療やケア、生活のあり方を確認していくプロセスである。これにより、介護休業や看取り期の選択を含め、本人・家族・職場が納得をもって対応できる体制が整う。企業においても、従業員が安心して働き続けられるための両立支援は、人材確保や組織の健全性を保つ上で欠かせない。ワークサポートケアマネジャーは、その実現に向けた専門的伴走者として、制度理解から具体的調整まで幅広く支援する役割を担っている。

<提供資料より要約>

